

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護管理学特論
担当者	金井Pak雅子
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.経営管理論の歴史の変遷が理解できる。                  2.看護管理学へ適応可能な経営管理論について習得する。                  3.看護サービス提供論について理解できる。</p>
授業の概要	<p>経営管理論の歴史の変遷を探求し、マネジメント分野で開発された理論の看護管理学への適応を図る。さらに看護管理学の概念枠組みを用いて、看護サービス提供システムについて、医療政策や時代背景を分析しながら環境要因を踏まえた看護管理のあり方を創造するために必要な理論を探求する。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. ガイダンス/マネジメントとは</p> <p>b. 本科目の目的および到達目標が理解できる。/マネジメントの基本理論が理解できる。</p>
第2回	<p>a. システム論</p> <p>b. システム論の基本が理解できる。システム論の看護組織への適応について理解できる。</p>
第3回	<p>a. 看護管理学の概念/看護管理学の歴史</p> <p>b. 看護管理学の概念が理解できる/看護学領域における看護管理学の歴史が理解できる。</p>
第4回	<p>a. ヘルスケアサービスシステム</p> <p>b. サービスとは何か、サービスの基本、ヘルスケアにおけるサービスマネジメントについて理解できる。</p>
第5回	<p>a. 看護サービス管理の要素</p> <p>b. 看護サービス管理の要素およびそのプロセスが理解できる。</p>
第6回	<p>a. マネジメント</p> <p>b. マネジメントの定義、マネージャーの役割、ビジョンについて理解できる。</p>
第7回	<p>a. 看護サービスマネジメント</p> <p>b. 実践における現象をサービスマネジメントの理論を活用し分析できる。その1</p>
第8回	<p>a. 看護におけるマネジメント</p> <p>b. 実践における現象について管理学の理論を活用し分析できる。その2</p>
教科書	中西睦子、小池智子、松浦正子編.(2013).看護サービス管理 第4版、医学書院
参考書	高梨智弘.(1996).マネジメント入門、日本経済新聞社
準備学習	それぞれの授業において事前に提示された文献を読んでから授業に臨む。
成績評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護管理学特講 I	
担当者	金井Pak雅子	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.サービスマネジメントの基本が理解できる。      2.保健医療サービスの仕組みが理解できる。          3.組織論の基本が理解できる。                      4.リーダーシップの基本が理解できる。          5.看護職のキャリア開発の基本が理解できる。      6.ワーク・エンパワメント理論の基本および実践への適応が理解できる。</p>	
	<p>保健医療福祉サービス提供組織の仕組みについて探求し、サービス提供体制の変革に関わる要素を探求する。さらに、組織における人間の行動についてマネジメント分野で開発された理論を活用しながら保健医療福祉分野の状況を分析できる能力を養い、多様な組織における管理のあり方、管理者としての役割・機能を探求する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容    b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	ガイダンス/保健医療サービスの仕組み
	b.	本科目の目的および目標が理解できる/日本の保健医療サービスの仕組みが理解できる。
第2回	a.	組織論
	b.	組織とは何か、意思決定、権限の委譲、ビジョンについて理解できる。
第3回	a.	組織分析
	b.	組織分析の方法を活用し、自己の所属する組織について分析できる。
第4回	a.	リーダーシップ
	b.	リーダーシップの諸理論について理解できる。自己のリーダーシップスタイルについて分析できる。
第5回	a.	リーダーシップ
	b.	自己の所属する組織におけるリーダーのリーダーシップスタイルについて分析できる。
第6回	a.	モチベーション、専門看護師・認定看護師の活用
	b.	モチベーション理論(マズロー、ハーツバーグ、強化理論、期待理論)について理解できる。専門及び認定看護師の活用について理解できる。
第7回	a.	ナレッジマネジメント
	b.	ナレッジマネジメントの基本について理解できる。ナレッジマネジメントの看護サービスへの活用を示唆できる。
第8回	a.	組織文化
	b.	組織風土、組織文化の定義について理解できる。自己の所属する組織の組織文化について分析できる。
第9回	a.	変革論①
	b.	変革のプロセス、フォース・フィールド・アナリシスについて理解できる。変革論の実践への適応を示唆できる。
第10回	a.	変革論②
	b.	自己の所属する組織において、変革論を活用し改革プランを作成しプレゼンする。
第11回	a.	看護職のキャリア開発
	b.	看護職のキャリア開発の基本、および管理者の役割について理解できる。
第12回	a.	ワーク・エンパワメント理論
	b.	ワーク・エンパワメント理論の基本について理解できる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	バーンアウト
	b.	バーンアウトの理論、Maslach Burnout inventory について理解できる。
第14回	a.	マネジメントにおける倫理的課題
	b.	マネジメントにおける倫理的課題について、現状および将来展望について理解できる。
第15回	a.	まとめ、マネジメントに関するプレゼンテーション
	b.	マネジメントの理論を活用し、今後の保健医療福祉におけるサービスの課題について理解を深める。

教科書	中西睦子、小池智子、松浦正子編.(2013).看護サービス管理 第4版、医学書院 文献は、そのつど事前に提示する。
参考書	関連する図書、専門誌の記事はアップデートしたものをそのつど提示する。
準備学習	提示された文献は、必ず読んでから授業に臨む。
成績評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護管理学特講Ⅱ	
担当者	金井Pak雅子、平田明美、河野秀一、熊谷雅美	
授業の到達目標及びテーマ	<p>保健医療福祉における人的資源管理の基本を習得する。さらに看護サービスの場において、その有効活用の具体的方法を習得する。</p>	
授業の概要	<p>保健医療福祉における人的資源管理に関する法令、労務管理、人材開発の基本について学習し、様々なレベル(グローバル、国、自治体、地域、施設)における人的資源の有効活用の具体的施策についてシステム論を活用しながら探求する。また、保健医療福祉分野のみならず経営管理の分野で開発、探求された人的資源管理の基本的理論や概念を習得する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	ガイダンス/システム論(金井Pak雅子)
	b.	本科目の目的が理解できる。システム論の基本が理解できる。
第2回	a.	経営資源と有効活用の基本(平田明美)
	b.	マネジメントに必要な資源とそれらの資源を有効活用するための基本が理解できる。
第3回	a.	専門職論(平田明美)
	b.	専門職の定義と看護専門職の社会化の意義が理解できる。
第4回	a.	組織風土(平田明美)
	b.	組織風土・組織構造が人的資源管理に与える影響を理解する。
第5回	a.	職務満足(平田明美)
	b.	職務満足とその関連要因について理解し効果的な対処法を考察する。
第6回	a.	動機づけ(平田明美)
	b.	マズロー、ハーズバーグの理論と人材育成への活用を理解する。
第7回	a.	認定看護師・専門看護師(平田明美)
	b.	認定看護師・専門看護師の役割と活用について理解する。
第8回	a.	キャリア開発(平田明美)
	b.	キャリア発達及びキャリアカウンセリングについての理解を深める。
第9回	a.	クリニカルラダーとコンピテンシーモデル(平田明美)
	b.	コンピテンシーモデルとそれを基盤にしたクリニカルラダーの考え方を理解する。
第10回	a.	施設における人的資源管理(熊谷雅美)
	b.	病院施設における人的資源管理の実際を理解する。
第11回	a.	労務管理(河野秀一)
	b.	看護管理者が行うべき労務管理の一般的知識を習得する。
第12回	a.	目標管理(河野秀一)
	b.	目標管理制度の原理原則を学び、現場での実践手法を理解する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	人事考課(河野秀一)
	b.	人事考課の基礎から活用までを理解する。
第14回	a.	看護マネジメントリフレクション(河野秀一)
	b.	看護マネジメントリフレクションの基本を学ぶ。
第15回	a.	ファシリテーション(河野秀一)
	b.	看護管理者が身につけるべきファシリテーションスキルを理解する。

教科書	河野秀一.(2011).モチベーションアップの目標管理～看護マネジメントが変わる 第二版、メディカルフレンド社
参考書	必要時、授業にて提示する。
準備学習	事前に提示した文献を読んでから授業に臨む。
成績評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護管理学特講Ⅲ
担当者	金井Pak雅子
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.ヘルスケアシステムにおける経営の資源がわかる。 2.経営資源の有効活用に関する基本が理解できる。          3.看護の経済評価の視点が理解できる。 4.看護の経済評価の視点を活用し所属する施設の状況を分析できる。          5.リスクマネジメントの基本が理解できる。 6.医療事故の分析方法が理解できる。          7.所属する施設の医療事故防止対策を立案できる。</p>
	<p>保健医療福祉における経済に焦点をあて、看護経済学の概念、看護ケアの経済評価の基本について探求し、21世紀における医療制度が看護にもたらす変化を分析し、戦略的看護サービスを実践するための看護管理者の役割と課題、将来展望について探求する。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. ガイダンス/看護経済学の概念</p> <p>b. 本科目の目的・目標について理解できる。看護経済学の概念について理解できる。</p>
第2回	<p>a. 看護の経済評価</p> <p>b. 保健医療システムの中で看護の経済評価の具体的内容について理解できる。</p>
第3回	<p>a. 経営の資源</p> <p>b. 経営の資源とは何か、経営として追究する課題について理解できる。</p>
第4回	<p>a. 保健医療福祉サービスにおける経済の仕組み</p> <p>b. 日本および海外(米国、英国、カナダ等)の保健医療福祉サービスにおける経済の仕組みについて理解できる。</p>
第5回	<p>a. 生産性</p> <p>b. 経営における生産性とは何か、看護サービスにおける生産性とは何かについて理解できる。</p>
第6回	<p>a. ヒトの管理</p> <p>b. 経営の資源である”ヒト”の有効活用について理解できる。</p>
第7回	<p>a. モノの管理</p> <p>b. 経営の資源である”モノ”の有効活用について理解できる。</p>
第8回	<p>a. カネの管理</p> <p>b. 経営の資源である”カネ”の有効活用について理解できる。</p>
第9回	<p>a. 情報の管理</p> <p>b. 経営の資源である”情報”の管理について、その基本が理解できる。</p>
第10回	<p>a. リスクマネジメント</p> <p>b. リスクマネジメントの基本が理解できる。</p>
第11回	<p>a. 医療安全</p> <p>b. 医療安全の意味とその必要性、看護職の法的規定が理解できる。</p>
第12回	<p>a. 医療事故発生メカニズムと分析</p> <p>b. ヒューマンエラー、事故の構造、SHELモデル、TQM, 5Sについて理解できる。</p>

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	リスクマネジメントの看護への適応
	b.	自己の所属する組織におけるリスクマネジメントについて分析し、プレゼンする。
第14回	a.	プレゼンテーション 1
	b.	自己の所属する組織における経営資源である”ヒト”の有効活用の具体的施策についてプレゼンする。
第15回	a.	プレゼンテーション 2
	b.	自己の所属する組織における経営資源である”モノ”あるいは”カネ”の有効活用の具体的施策についてプレゼンする。

教科書	井部俊子・中西睦子監修(2015)看護管理学習テキスト6看護経営・経済論.日本看護協会出版会 角田由佳.(2007).看護師の働き方を経済学から読み解く.医学書院 松下由美子編.(2016).医療安全.ナースング・グラフィカ看護の統合と実践②、メディカ出版
参考書	必要時、授業にて提示する。
準備学習	それぞれの授業で事前に指定された文献を読んで授業に臨む。
成績評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護管理学演習
担当者	金井Pak雅子、平田明美
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.看護管理学に関する質的および量的研究手法について理解できる。                  2.統計学の基本的知識を習得する。                  3.アクション・リサーチの基本が理解できる。                  4.トランスレーショナル・リサーチの基本が理解できる。                  5.マーケティング・リサーチの基本が理解できる。</p>
授業の概要	<p>看護管理学研究に関する質的および量的研究手法について文献を通して理解を深めるとともに、統計学的手法の基本を習得する。アクションリサーチ、トランスレーショナルリサーチ、マーケティングリサーチの手法について、習得する。看護管理の実証的研究や政策提言に関係する研究論文を批判的に読み解き、文献検討としてまとめる。</p>
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. ガイダンス/質的研究(金井Pak雅子)</p> <p>b. 本科目の目標・目的が理解できる。/グランデッドセオリー、現象学、エシノグラフィーの基本が理解できる。</p>
第2回	<p>a. 量的研究(金井Pak雅子)</p> <p>b. 看護管理学研究における量的研究手法が理解できる。</p>
第3回	<p>a. 統計の基本(金井Pak雅子)</p> <p>b. 統計学の基本的知識、分析方法について理解できる。</p>
第4回	<p>a. 統計学の基本用語(金井Pak雅子)</p> <p>b. 統計学の基本用語が理解できる。</p>
第5回	<p>a. 記述統計学(金井Pak雅子)</p> <p>b. 記述統計学の基本が理解できる。</p>
第6回	<p>a. 推測統計学①(金井Pak雅子)</p> <p>b. ANOVA, 因子分析の基本が理解できる。</p>
第7回	<p>a. 推測統計学②(金井Pak雅子)</p> <p>b. 重回帰分析、Logistic 解析の基本が理解できる。</p>
第8回	<p>a. 看護管理学の先行研究において、量的手法を使った文献の検討(金井Pak雅子)</p> <p>b. 量的研究手法を批判的に読み解くことができる。</p>
第9回	<p>a. 量的研究プレゼンテーション(金井Pak雅子)</p> <p>b. 量的研究手法を使った看護管理学分野の先行研究の内容を発表できる。</p>
第10回	<p>a. アクション・リサーチ(平田明美)</p> <p>b. アクション・リサーチの基本が理解できる。</p>
第11回	<p>a. プレゼンテーション:アクション・リサーチ(平田明美)</p> <p>b. アクション・リサーチ手法を使った看護管理学分野の先行研究の内容を発表できる。</p>

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	トランスレーショナルリサーチ(平田明美)
	b.	トランスレーショナルリサーチの基本が理解できる。
第13回	a.	看護管理学におけるトランスレーショナルリサーチ(平田明美)
	b.	看護管理学分野におけるトランスレーショナルリサーチの具体的手法が理解できる。
第14回	a.	マーケティング・リサーチ(平田明美)
	b.	マーケティング・リサーチの基本が理解できる。
第15回	a.	APAを使った論文作成(金井Pak雅子)
	b.	APAを使った論文の基本が理解できる。

教科書	早川和生.(2012)看護研究の進め方 論文の書き方 第二版、医学書院 筒井真優美・江本リサ.(2010).アクションリサーチ入門 看護研究への新たなステージへ ライフサポート社
参考書	前田樹海・江藤裕之.(2013).APAに学ぶ 看護系論文執筆ルール、医学書院 アメリカ心理学会著.前田樹海・江藤裕之・田中建彦訳.(2012).APA論文作成マニュアル第二版、医学書院
準備学習	事前に提示された文献をすべて読んでから授業に臨む。
成績評価方法・基準	プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護管理学特別研究
担当者	金井Pak雅子、平田明美
授業の到達目標及びテーマ	<p>1.自己の探求するテーマについて、包括的な文献検討ができる。</p> <p>2.研究計画書を作成する。</p> <p>3.研究計画書にそって、研究をすすめ、最終的には修士論文として仕上げる。</p>
授業の概要	<p>世界的な視点から看護管理全般、看護行政または保健医療福祉政策・経済に関して時代の趨勢を反映した現在または将来の看護のあり方を追究したり、組織分析や変化を通して創造的看護管理を実践するための手法を探求する基礎能力を養う。一連の研究プロセスを通して看護管理学の発展に寄与する研究能力を養う。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～	a. 自己のテーマを確定および関連文献検討
第20回	b. 自己のテーマの先行研究を包括的にレビューし、文献検討としてまとめる。
第21回～	a. 研究計画書作成
第30回	b. 自己の研究テーマに基づき研究計画書を作成する。
第31回～	a. 研究の実施
第50回	b. 研究計画書に基づき研究する。
第51回～	a. 修士論文作成
第70回	b. 研究成果を修士論文としてまとめる。
第71回～	a. 修士論文発表会
第75回	b. 発表会にて修士論文を発表し、評価、コメントを踏まえ論文投稿の草案を作成する。
教科書	その都度提示する。
参考書	必要時提示する。
準備学習	提示された文献を必ず読んでから個人面談に臨む。
成績評価方法・基準	主査および副査による論文審査と口頭試問80% 修士論文発表20%